

1. 構想の概要

【構想の名称】

戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成 (SHARE-Q)

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

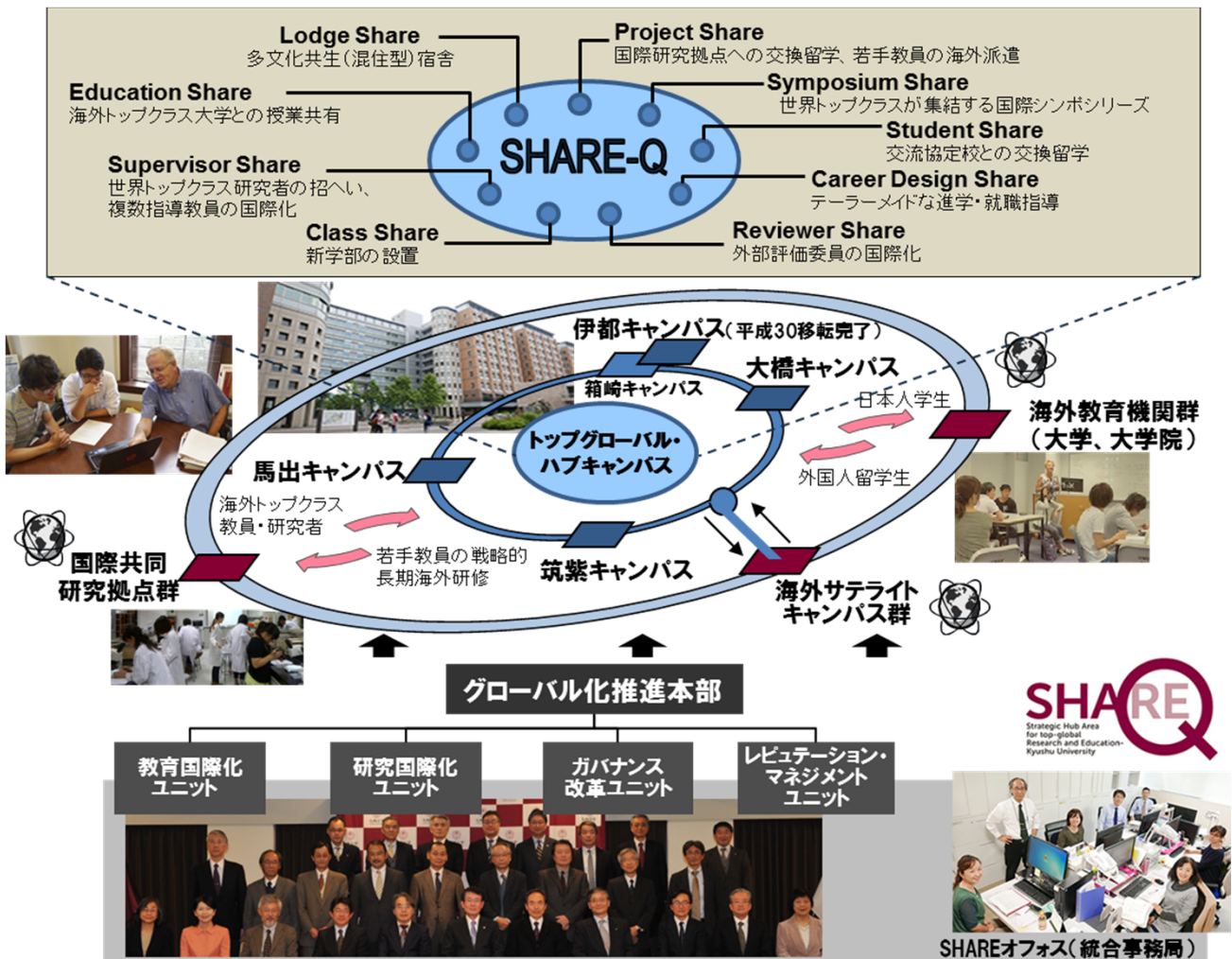
教育、研究の国際化及びこれを支えるガバナンス改革を推進する一方、戦略的なレピュテーション・マネジメントにより情報を発信する。これにより本学の強み・特色である多面性(学術分野の多様性を活かした国際連携)、発展性(アジア戦略の成果に立脚した世界展開)、重層性(研究型総合大学としての層の厚い教育・研究)を基に、2018年に移転が完了する伊都キャンパスを中心に世界的な研究・教育拠点を確立し、世界の知性が行き交うトップ・グローバル・ハブ・キャンパスを創成する。

【構想の概要】

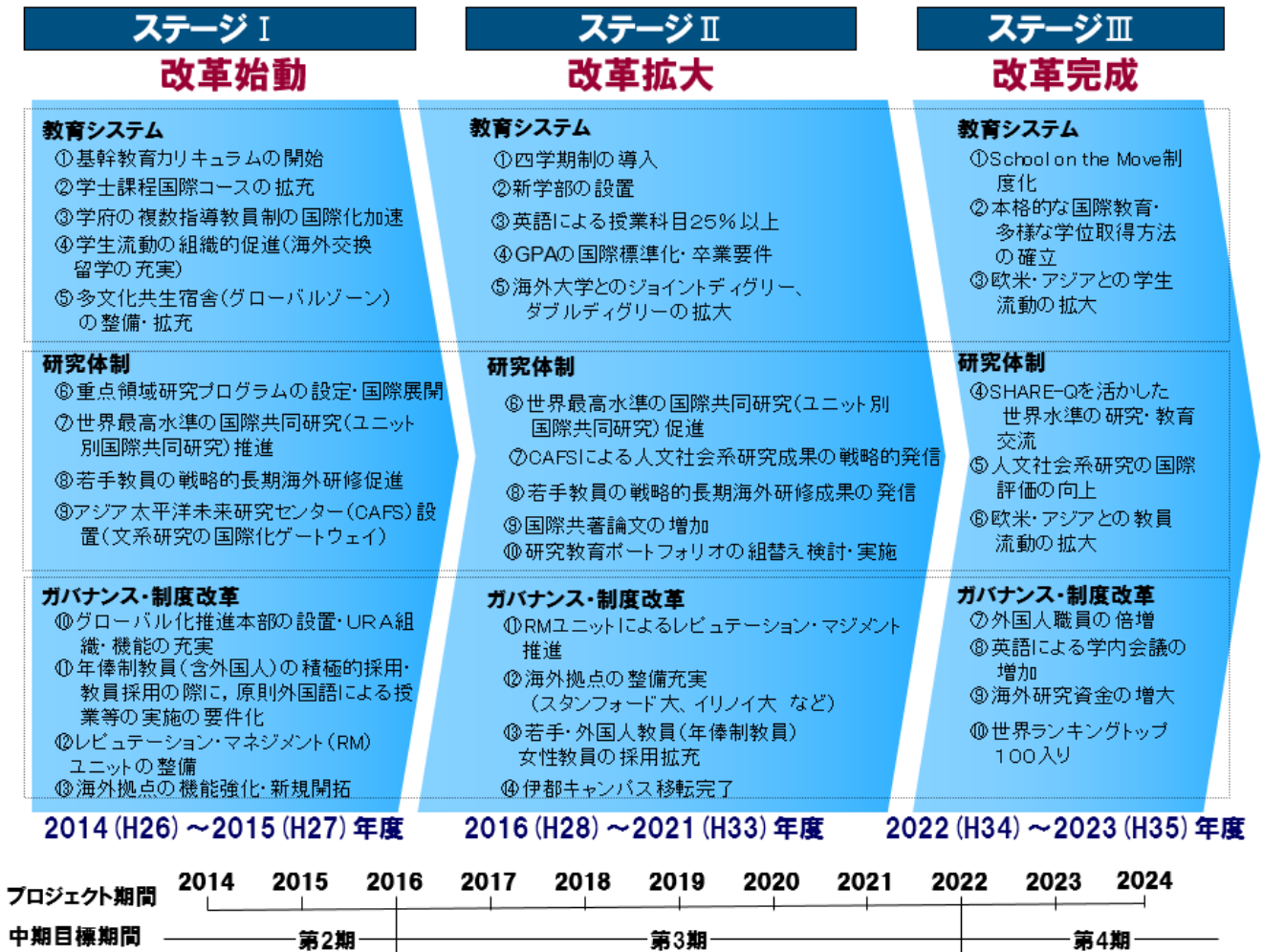
教育、研究、ガバナンスの全学的な改革を推進するため、6つの取組を行う：①新学部の設置、四学期制の導入などの「教育システムの国際化推進」；②世界トップクラスの大学との研究・教育交流などを通じた「研究の国際化推進」；③若手・外国人・女性教員の積極的採用等の「国際化を推進するガバナンス・制度改革」；④世界大学ランキング向上のための「戦略的レピュテーション・マネジメント」；⑤教育研究環境の整備などの「留学生・外国人研究者に対する環境づくり」；⑥研究教育拠点、海外サテライトキャンパス等の「海外拠点の整備充実」。

さらに9つのshareの相乗的・協働効果で研究教育の強化を図る：(1)Class Share (新学部の設置)、(2)Lodge Share (多文化共生(混住型) 宿舎)、(3)Career Design Share (テラーメイドスタディナビゲーション)、(4)Student Share (交流協定校との交換留学)、(5)Education Share (海外トップクラス大学との授業共有)、(6)Supervisor Share (大学院複数指導教員制度の国際化)、(7)Project Share (国際共同研究拠点との交換留学、若手教員の長短期派遣)、(8)Symposium Share (本学と国際共同研究拠点主催の世界トップクラス研究者が集結する国際シンポジウムのシリーズ開催)、(9)Reviewer Share (教育・研究に関する外部評価委員会の国際化等)。

これらの実施にあたり、総長を中心とするグローバル化推進本部を設け、教育国際化、研究国際化、ガバナンス改革、レピュテーション・マネジメントの4ユニットで取り組み、統合事務局としてSHAREオフィスが支援する包括的な体制を整備する。



【10年間の計画概要】



【特徴的な取組(国際化, ガバナンス改革, 教育改革等)】

- 新学部の設置**
外国人留学生と日本人学生が共に学ぶ(Class Share)新学部を設置する。
- 外国人教員の積極的採用・新任教員の英語での授業義務化**
平成28年度までに外国人教員の倍増を図る。また、教員採用の際に、原則外国語による授業等の実施を要件とする。
- 重点領域研究プログラムの設定**
本学が強みとする研究分野を軸とする重点領域研究プログラムを設定し、国際共著論文を飛躍的に増加させる。また、重点領域研究プログラムをシリーズとする国際シンポジウムの連続開催により国際共同研究を促進する。
- 研究教育ポートフォリオの戦略的組換え**
世界トップレベルの研究者等の外部評価委員の意見を基に、各部局において研究組織(講座)の改変・組替えを含めた研究力強化を図る。
- レピュテーション・マネジメントの推進**
世界大学ランキングトップ100入りに向け、レピュテーションマネジメントを推進し、国際的評価の向上を図る。

【海外の大学との連携の推進方策】

- ダブルディグリー／ジョイントディグリー等による学位スタンダード**
海外の大学との授業共有や、ダブルディグリー・ジョイントディグリープログラム等の国際共同教育プログラムを増加させ、教育の国際化を推進する。(DD/JD:6件→16件)
- 短期受入・派遣による学生交流**
グローバル人材育成のための新たな短期プログラム(受入・派遣)の開発において、海外の協定大学等と連携する。
- 海外研究拠点の設置による共同研究の推進**
海外の連携大学との協力により、学生交流拠点の機能も持つ研究教育拠点を設置し、大学院生の交換留学を促進するほか、若手研究員の長短期派遣、国際シンポジウムにより、共同研究を推進する。
- 事務職員の高度化を目指した研修プログラム**
交流協定校を利用した研修プログラムを増加させ、国内での研修や資格試験の受験、海外オフィスでのOJTと併せて、国際化対応能力の向上を目指す。

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 外国人教員・留学生の受入れ促進

- 1) 教員人事の基本方針に、新規採用にあたっての「国際公募の原則」、「女性・他大学出身者等の積極的採用」を明記。また国際公募の英文フォーマットを作成。
- 2) 世界各地で、短期留学プログラムの開発のための協議やプロモーションを展開。

2. 留学生支援体制の整備

- 1) 外国人留学生の日本国内での就職活動を支援するキャリア支援コーディネーターを配置。また外国人留学生のための就職ガイダンス開催(10月)、民間企業27社が参加するジョブフェアを開催(3月)。
- 2) 外国人留学生と日本人学生混住の学生寮「伊都協奏館」、「ドミトリーⅢ」を開館、10月より利用を開始。ルームシェア型の居室により、留学生と日本人学生が共同生活を実現。

3. 日本人学生の留学生支援体制の整備

グローバル学生交流センターを立ち上げ、各キャンパスに留学コーディネーターを配置。これらにより、「トビタテ留学JAPAN」の採択者が4名から11名に増加。

4. 教育研究の国際化の推進

- 1) 成績評価の基準の明確化や卒業時の目安としての活用等を盛り込んだ新たなGPA制度を構築。また、学士課程における科目ナンバリング体系案を策定。
- 2) 4学期制を基本とする新たな学期制を検討。シミュレーションとアクションプランを策定。
- 3) 「外国語による授業の実施推進に関する基本方針」を総長裁定により制定。全授業科目の25%程度を外国語による授業科目とするを旨とし、全学的な取組を推進。



〈台湾での留学フェア〉



ドミトリーⅢのルームシェア型居室



トビタテ2期採択学生の壮行会

ガバナンス改革関連

1. 人事システムの改革

- 1) 魅力ある年俸制給与体系とメリハリある業績評価体制の一体的構築により、2千万円級の給与が支給可能な新たな年俸制を平成26年度から導入。平成27年度からは、シニア教員においても年度末の年齢に応じて段階的に年俸制への切り替えを可能とすることを決定。
- 2) 本学と他機関の間で出向契約や協定等を締結し、双方の身分を有しつつそれぞれの業務を行うクロスアポイントメント制度を導入。

2. ガバナンス改革

- 1) 総長のリーダーシップの確立と、法令等に基づく教授会の役割の明確化等を目的として学内規則を改正。また、大学運営の効率化等の観点から委員会組織を再編。
- 2) ウォーリック大学とブリティッシュ・カウンシルによる事務職員に対する英語及び国際化対応スキルの研修を実施。他にも事務職員に対する英語の集中研修を実施。研修を受講した職員等に対しTOEIC-IPテストを実施。

教育改革関連

1. 教育システムの改革

- 1) 生涯にわたり自律的に学び続けることができる「アクティブ・ラーナー」の育成を目指し、学士課程において「基幹教育」と称する新たなカリキュラムを開始。
- 2) 教育の国際化に向けたシステム改革として、GPA制度の見直し、科目ナンバリングの導入、それらに伴うシラバスの見直し等を実施。
- 3) 本学附属図書館教材開発センターの独自のスタジオで制作したビデオ教材「Global Social Archaeology」をJMOC公認のOpenLearning Japanの第1号として提供。

2. 学生の主体的参加と大学運営への反映の促進

日本人学生と外国人留学生からなる国際化学生委員会が主催し、本学の国際化についてワークショップを開催。その内容をとりまとめ総長に提出。



本学のスタジオによる独自教材作成



国際化学生委員会と久保総長

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. 世界大学ランキング向上に向けた取組

教育研究の成果を国内外に戦略的に発信し、レピュテーションの向上とともに世界大学ランキングの向上に取り組むレピュテーション・マネジメントユニットを設置。ユニットを実質的にリードする副学長クラスのエキスパートを海外から招聘予定。

2. 教育システムの国際化推進

バンドン工科大学、アテネオ・デ・マニラ大学との間で新たにダブル・ディグリーの実施に関する協定を締結。また、キャンパスアジアプログラムにおいて、本学、釜山大学校、上海交通大学の3大学間で初の修士課程ダブルディグリー生が誕生。

3. 研究の国際化推進

- 1) URA機構を改組し、競争的資金の獲得支援や獲得後のマネジメント体制の強化を担う学術研究・産学官連携本部を設置。
- 2) エジプト日本科学技術大学(E-JUST)との共催による「日本エジプト電子・通信・計算機に関する国際学会」(3月)をはじめ、本学主催・共催の国際シンポジウムや国際学会等を135件開催。

4. 未来型キャンパス創出

- 1) 「伊都協奏館」, 「ドミトリーⅢ」の開館により、伊都キャンパスに1,300名を超える学生等が共生するグローバルゾーンが誕生。
- 2) アクティブ・ラーニングスペースをはじめ、多様な学修空間を持つ国際化拠点図書館の建設を開始。平成28年度に一部開館予定。



上海交通大学での学位授与セレモニー



ドミトリーI, II, III, 及び協奏館

■ 国際的評価の向上につながる取組

1. 国際的評価向上のためのマーケティング調査

本学のブランド力及び研究力・レピュテーションに関する分析調査を実施。今後レピュテーション・マネジメントに活用。

2. 英語版ウェブ・サイトの全面リニューアル

ウェブ・サイト英語版の全面リニューアルに着手。海外のユーザーに対するアクセシビリティを高めるとともに様々な情報をタイムリーに発信する仕組みを整え、平成27年度中に完成予定。

3. World100 Reputation Networkへの加入

海外のトップクラスの大学等が加入するWorld100 Reputation networkへの加入を決定。海外のレピュテーション・マネジメント担当者とのネットワーク構築と情報収集を実施。

【海外の大学との連携の実績】

1. オーストラリアに新たなタイプの海外拠点を設置

ラ・トロブ大学(オーストラリア)にマス・フォア・インダストリ研究所(IMI)分室を開設(3月)。産業界を含めた数学・数理科学の研究連携や学生交流の拠点として活用。また、分室の教員を共同で選考の上、ラ・トロブ大学で雇用し九州大学に出向させるという新たな人事の形を実現。



ラ・トロブ大学でのIMIオーストラリア分室開所式

2. サイバーセキュリティセンターの設置

メリーランド大学(米国)と連携し、学内にサイバーセキュリティ研究・教育の強化に取り組むサイバーセキュリティセンターを開設。

3. ハノイ国家大学にてASEAN大学研修プログラム(AsTW)を実施

ASEAN諸国の大学学部生を対象に、ASEAN専門科目やアジア文化入門科目からなるプログラムをハノイ国家大学(ベトナム)で開催。日越を含む6カ国の交流協定校より35名が参加(3月)。



ハノイ国家大学でのAsTW修了式

4. ソウル大学校研修プログラムの実施

ソウル大学校の学生を対象に本学留学生センターが日本語集中コースを提供、6名が参加(1月)。

5. 英語で学ぶ日本語・日本文化プログラム(ATW)の実施

交流協定校の学生を中心に欧米アジア13カ国31大学より49名を1年もしくは半期での留学プログラムで受け入れた。

■ 自由記述欄

1. 実施体制の設置

グローバル化推進本部、4つのユニット、SHAREオファスなど体制を整えた。

2. 新学部の設置

第三期中期目標・中期計画期間前半の設置に向けて検討を実施。

3. 日豪大学間シンポジウムの計画立案

日本・オーストラリア両国の大学間のパートナーシップを推進・強化することを目的とし、SGU採択校を中心に、平成27年度11月にシドニーにて日豪大学間シンポジウムを計画、シドニーの関連大学等を訪問し調査した。

3. 取組み内容の進捗状況（平成27年度）

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

補助金を活用したスタッフの配置、海外でのプロモーションやリクルートの実施等により学生交流の推進、外国人教員や研究者の受入促進を行った。

各キャンパスに留学コーディネーターの配置を完了

- ▽グローバル学生交流センターの留学コーディネーターを各キャンパスに配置。
- 各学部等の特性に応じた日本人学生の留学支援等を実施。

トビタテ！留学JAPAN！日本代表プログラム第4期の合格者数で全国単独第2位

- ▽補助金の活用により配置した留学コーディネーター等の支援により合格者数が上昇。

外国人教員等の招聘

- ▽大学・部局間国際交流協定等推進事業等により外国人教員や著名な研究者の招聘を推進。主幹教授が設置したセンター等において当該分野での著名な外国人研究者の招聘を推進。



ガバナンス改革関連

総長のアクションプランのもと、制度改革や事務職員の高度化に取り組んだ。

クロスアポイントメント制度の活用

- ▽医学、薬学、人文社会科学分野でクロスアポイントメント制度を活用した人事を実施。
- ▽人文社会科学分野ではボーダースタディーズの第一人者を採用。

教員の年俸制適用の拡大

- ▽シニア教員について段階的に年俸制への移行を開始（27年度211名）。
- ▽新規の特定プロジェクト教員等についても年俸制の適用を開始。

全学の事務職員を対象としたTOEIC-IPを実施

- ▽全学の55歳未満の事務職員及び一部の技術職員を対象にTOEIC-IPを実施。約700名が受験。
- ▽職員等に占める600点以上の者の割合は19.8%。

シドニー大学との連携で事務職員の長期滞在型研修を実施

- ▽事務職員の国際化と高度な実務能力養成を目的として、シドニー大学との連携で、同大学で1カ月間の滞在型研修を実施。事務局及び部局事務部から5名が受講。



長期滞在型研修の様子（シドニーにて）

教育改革関連

教育の国際化に向けた様々な制度改革を実施した。

「新学部設置素案」（平成30年度設置予定）を策定

- ▽3ポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）やカリキュラムについての論点やスケジュールを整理。

4学期制の全学的導入を決定

- ▽シラバス及びGPA制度の改定、科目ナンバリング及びルーブリックの導入等につき、平成29年度からの4学期制の全学一斉導入を決定。

外国語による授業の推進

- ▽基本方針等を決定。外国語及び日本語による授業科目と外国語のみによる授業科目を合わせて早期に全授業科目の25%を達成し、可能なものから外国語のみによる授業科目に転換することを目指す。

シラバスの英語化

- ▽シラバス記載項目のうち英語化すべき項目を全学的に共有し日英併記の徹底を推進。

SALC(Self-Access Learning Center)による

自律的英語学習支援

- ▽正課外での学生の英語自律学習支援を行うSALCの利用者が急増。平成27年度は2,722名（前年度の3倍）が利用。



SALCの利用者たち

■ 大学独自の成果指標と達成目標

世界大学ランキング向上に向けた取り組み

▽ブランド、レピュテーション、研究力について国内外の大学とのベンチマーキングを実施。また、ランキング実施機関への提出データの精査を実施。

ダブルディグリープログラムの拡大

▽エジプト日本科学技術大学、国立台湾大学等とダブルディグリー協定を締結。平成27年度末での件数は11件（平成28年度の目標10件）。

▽学内でダブルディグリーや国際連携教育プログラムについて理解を深めるためのフォーラムを開催、ノウハウを共有。



未来型キャンパスの整備が進行

▽伊都キャンパスに理学系総合研究棟施設が開館。▽国際化拠点図書館、文系地区総合教育研究棟、農学系総合研究棟の整備に着手。



■ 国際的評価の向上につながる取り組み

本学主催により日中学長会議を開催

▽「グローバル時代における日中大学の国際化」をテーマに、本学で日中学長会議を開催。その成果として福岡宣言を採択。

World 100 Reputation Networkに参加

▽世界トップレベル大学の担当者の集まりであるWorld 100 Reputation Networkに加盟。

▽シドニーでの年次大会にて講演を行うと共に、世界の大学レピュテーション担当者間のネットワークを構築。



レピュテーションマネジメントによる取り組み

▽World 100 Reputation Networkの会長による執行部向けのレピュテーションマネジメントセミナー、京都大学のエキスパートによるサイエンスライター養成に向けた研修等を実施。

■ 海外の大学との連携の実績

UQ-KU研究教育交流プロジェクト

▽協定校のクイーンズランド大学との間で、より実質的な交流を推進するプロジェクトを開始。クイーンズランド大学に活動拠点とコーディネーターを配置して学術交流、教育連携、産学連携を推進。

世界トップ100大学から研究者ユニットを招聘

▽世界大学ランキングトップ100のマサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学、UCサンタバーバラ校等からナノ材料や広人文学をはじめとした分野で活躍する研究者46名を招聘し、共同研究・人材育成について論議。

マレーシア日本国際工科院との連携

▽マレーシア工科大学において、日本のODA事業により設立されたマレーシア日本国際工科院に本学オフィスを開設。ダブルディグリープログラムの立ち上げに向けた協議を実施。

■ 自由記述

シドニーで日豪大学間シンポジウムを開催

▽「成功するパートナーシップ：経験から学ぶ」をテーマにシドニー大学でシンポジウムを開催。日本側より32、オーストラリア側より29の大学・政府機関等が参加。研究・教育・ガバナンスの面から日豪間で交流促進について協議。▽シンポジウムを契機としてニューサウスウェールズ大学との共同研究連携の協議、ラ・トローブ大学との人文社会科学分野でのコロキアムの開催等が進展。



▽本学の基本理念の実現に向けた10年後の総長のアクションプランと重点取組を公表。

エネルギー研究教育機構の設置を決定

▽総長のアクションプランに基づく重点研究分野としてエネルギー研究教育機構の設置を決定。大学改革活性化制度により教員人事ポイントを配分。

人文・社会科学分野の機能強化に向けた組織の見直しの検討に着手

▽総長のアクションプランに基づく重点取組事項である人文・社会科学分野の機能強化に向けた組織の見直し等を開始。

▽人社系の異分野融合研究に対し研究経費の支援を行うプログラムを開始。

4.取組み内容の進捗状況（平成28年度）

【九州大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

トビタテ！ -留学JAPAN- 第6期の合格者数が全国1位

第1期からの累計合格者数も全国第2位。
グローバル学生交流センターのコーディネーター等のサポートが成果をあげている。

新たに国際コースを開設

工学部、農学部に加えて、新たに6つの学部で平成30年度以降に国際コースを開設予定。

エジプトとの関係強化

平成29年3月に在エジプト国大使館との共催で留学フェアを開催。計750名が参加。エジプト・日本科学技術大学（E-JUST）とのダブルディグリー、学部創設への協力も実施。

（右写真：留学フェアの様子）



ガバナンス改革関連

国際戦略、RM戦略、広報戦略を策定

総長のアクションプラン2015-2020に基づく国際展開への三本の矢を策定。
国際的レピュテーションの向上を図る。

IR室が本格スタート

大学評価情報室を発展的に改組しIR室を設置。学内のデータ収集とデータリストの作成を実施。
SciVal、Pureの導入により国際的な研究力分析の基盤を整備。

新たな人事制度の構築

国内外から優れた研究者を招聘するための仕組みのひとつとして、配偶者帯同雇用制度を制定。

規則の英文化を推進

急増する外国人教員や留学生にとって重要度の高いものから改訂等を実施。



教育改革関連

共創学部の開設を発表

既存の学部の枠組みを超え、自ら課題を見つけ、多様な人々との協働を通じて課題解決やイノベーションの創出に取り組むことのできる人材の養成を目指す新たな学部を開設（平成30年度）。

教育関係共同利用拠点に認定

リベラルサイエンス教育開発、専門的人材養成プログラム開発をミッションとする「次世代型大学教育開発拠点」が文部科学省の教育関係共同利用拠点に認定。

ICTを活用した教育改善

Moodle（e-learningシステム）、Mahara（eポートフォリオシステム）、BookLooper（デジタル教科書配信システム）から成るM2B（みつば）学習支援システムの活用を推進。
教育データの分析による教育改善も目指す（eラーニングアワード2016を受賞）。



■ 大学独自の成果指標と達成目標

世界大学ランキング対応の基本方針と方策を策定
総長イニシアティブによるタスクフォースにより世界大学ランキング対応の基本方針と方策を策定。世界大学ランキング対応をテーマに全学FD/SDを開催。



ダブルディグリープログラムが順調に増加
新たにエジプト・日本科学技術大学（E-JUST）とのダブルディグリーの開始など、これまでに数値目標を上回る12件のダブルディグリーを実施。

■ 国際的評価の向上につながる取組

強み・特色の伸張

エネルギー研究教育機構を創設。人社会・理工系をはじめオール九大で未来のエネルギーシステムを構想し、技術・産業・社会のパラダイムシフトを先導。平成29年1月～2月に海外からの多彩な研究者の参加を得て、国際シンポジウム「九州大学エネルギーウィーク2017」を開催。



世界社会科学フォーラムの主催が決定

世界の人社会学術機関の総本山である国際社会科学会議（International Social Science Council：ISSC）の主要な活動である世界社会科学フォーラム（World Social Science Forum: WSSF）の平成30年の本学主催が決定。

RM戦略を策定

本学RMユニットにより、国際的レピュテーションの向上を実現するためのレピュテーションマネジメント戦略（RM戦略）を策定。国際戦略、広報戦略と連携し、世界大学ランキングをはじめ国際的評価の向上を実現する。



■ 海外の大学との連携の実績

オーストラリアの大学との連携推進

平成27年度の日豪大学間シンポジウムを契機としたオーストラリアとの連携が進展。水素やサイバーセキュリティに関する共同研究（ニューサウスウェールズ大学）、UQ-KU 研究教育交流プロジェクトによる学生・学術交流（クイーンズランド大学）、マス・フォア・インダストリ研究所オーストラリア分室を核とした人社会コロキウムを開催（ラ・トロブ大学）。



スウェーデンの大学とのコンソーシアム

平成27年に開催された第1回日端学長会議を発端に、両国の連携プラットフォームを構築するパイロット事業「MIRAIプロジェクト」に参画することを決定。将来的に2国間での共同研究を担っていく若手研究者が交流できる機会を提供する試みをスタート。

■ 自由記述

グローバル化アドバイザリーボードを開催

スタンフォード大学やオックスフォード大学でマネジメントの経験を持つ教員をはじめ5名の外国人有識者から成るグローバル化アドバイザリーボードを開催。新学部構想や研究の国際競争力向上等について意見交換を実施。学内の外国人教員によるアドバイザリーグループからも意見を受け、大学運営に反映。



新キャンパスで未来の科学技術の新たな実証実験を実施

超高齢化社会において活用が期待される新技術のひとつとして、伊都キャンパスにおいて、自動運転バス走行についての実証実験を開始。将来のキャンパス内での運行も目指す。



5.取組み内容の進捗状況（平成29年度）

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

海外大学とのダブルディグリー推進

新たに人間環境学府が韓国・釜山大学及び中国・同済大学との間で修士課程ダブルディグリープログラム（建築学）新設に同意。本学のダブルディグリープログラム数は16、修了者数は本学学生22名、連携大学の学生49名。

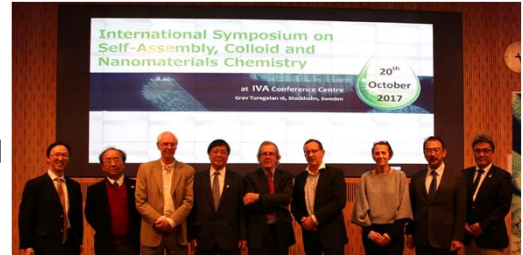
海外オフィスによる展開

ハノイオフィスを活用し、ベトナムにて「Power of Research-Kyushu University Symposium Hanoi 2018-」を開催し、研究大学としての魅力をアピール。90名以上の参加。また、昨年度に引き続き、カイロ及びアレキサンドリアで本学カイロオフィスを活用した留学フェアを開催。約950名が参加。



国際化学シンポジウム in スウェーデン

スウェーデンにおける本学の知名度向上を目的として、ストックホルムにて国際シンポジウム「International Symposium on Self-Assembly, Colloid and Nanomaterials Chemistry」を主催。世界の第一線で活躍する化学者を各国から招へいし、本学の卓越した研究力をアピール。



ガバナンス改革関連

IR機能の整備・強化

大学運営に資する基礎情報を集約し「九州大学IRデータ集」（日英）を作成。また、SciValやPureを活用したデータ分析をはじめ、これらのツール等で得たデータをもとにBI(Business Intelligence)ツールを用いてデータを分析。その結果を執行部や学内関係者へ提供。大学運営のためにモニタリングすべき情報を経年で閲覧可能な仕組みを構築。



外部評価委員会を開催

事業4年目を迎え、これまでの取組実績について検証する場として、外国人1名を含む学外有識者4名による外部評価委員会を開催。

教育改革関連

共創学部設置に向けた準備

共創学部の設置が認可され、平成30年度の開設に向けて学部運営のための体制づくりを推進。積極的な広報活動により、志願者数は486名に。

新たな入試方法の導入

平成30年度に開講する共創学部で、本学新入試「QUBE」に掲げる4類型の入試（21世紀入試発展型、高大連携型、国際型、学力重視型）を全て実施。実績を検証し、全学部への展開を目指す。

教育改革推進本部の新設

全学的な教育改革の方針・計画等の企画・立案等を行ない、教育の質の向上を図る全学の教学マネジメント組織として設置。教育改革のPDCAサイクルの確立、高大接続・入試改革などを全学的に推進する。

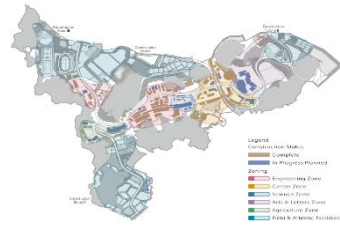


新入試(QUBE:「Q」Kyushu University, 「B」Border Crossing, 「E」Entrance)	
大学適応力重視型 (21世紀入試発展型)	加速学習型 (高大連携型)
国際経験・英語力重視型 (国際型)	記述学力重視型 (学力重視型)

■ 大学独自の成果指標と達成目標

グローバルキャンパスの整備

伊都キャンパスでは、スマートフォンアプリを利用したオンデマンド乗合バス実証実験を開始。本学、糸島市、企業3者による「糸島市九州大学国際村構想」連携協定を締結。近隣地区を留学生や外国人研究者の受け入れ拠点とし、魅力あふれる国際学術研究都市としてのまちづくりを目指す。



THE世界大学ランキング日本版 5位

教育の充実度が主な指標となる本ランキングにおいて、昨年の7位から5位に躍進。「教育成果」が高いポイントを獲得。

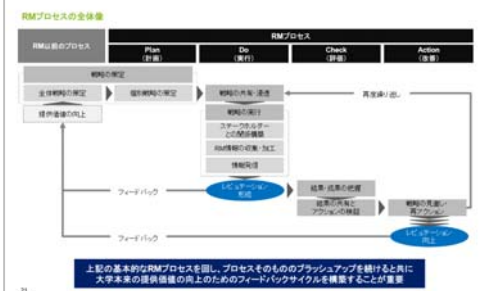
■ 国際的評価の向上につながる取組

レピュテーション・マネジメント(RM)の推進

国際的シンクタンクであるデロイト・トーマツと共同で、昨年度に策定したRM戦略に基づく実行プラン策定に向けた、海外大学ベンチマーク調査、留学生調査、グローバル企業調査の結果をもとに、総長をはじめとする執行部によるワークショップ、RMユニットメンバーによるワークショップを開催し、現状を分析し課題を抽出。課題のうち、研究フラッグシップの明確化と海外情報発信の強化について、グローバル化アドバイザーボードメンバーと意見交換を実施。



戦略の実行に向けて、RM全体のあるべきプロセス・PDCAサイクルを整理する



■ 海外の大学との連携の実績

クイーンズランド大学との連携推進

オーストラリア・クイーンズランド大学との連携事業「UQ-KU Project」の取組の一環として、15名のUQ生の受け入れ開始。プログラムでは民間企業と連携し、幅広い工学分野の知見を得るとともに、産業界の現況を含む日本の工学技術の発展の歴史、ビジネスマナーなどを習得。



マラヤ大学にてASEAN留学プログラム実施

ASEAN諸国の大学学部生を対象に、ASEAN専門科目やアジア文化入門科目からなるプログラムをマラヤ大学（マレーシア）で開催。日本とマレーシアを含む7カ国の11大学より32名が参加。

■ 自由記述

日本で初となる模擬国連キャンプを開催

国際化学生委員会 (SCIKyu) の学生が、オックスフォード大学模擬国連サークルや立命館アジア太平洋大学等の有志とともに、完全英語による国際標準の模擬国連を体験するサマーキャンプを本学キャンパスで開催。学内外の大学生・高校生40名が参加。



九州大学起業部始動

ベンチャー企業創出を目指す学生の部活動の場として「九州大学起業部」を設立。平成30年1月に顕微鏡の画像から人工知能 (AI) を使って病気の有無判定を支援するソフト開発社1社が起業。また、起業部のチームNOVIGO (ノビーゴ) が、九州最大のStartupイベント「StartupGo!Go!2017」で優勝するなど、今後の活躍が見込まれる。

